

公民館かながわ



JR御殿場線と桜並木



しゃすい たぎ
洒水の滝

目次

県公連事業報告	2
公民館館長等研修会	2
館長・公民館運営審議会委員等 研修会	3
生涯学習指導者研修 「公民館担当者コース」	4
第五十五回神奈川県公民館大会	5
サークル紹介 「むつみ会」 (三浦市初声市民センター) 「成瀬シルバー囲碁倶楽部」 (伊勢原市立成瀬公民館)	6
わが館の自慢事業 「三者三様」 (愛川町文化会館・ 中津公民館・半原公民館)	7
県公連を見直す 県公民館連絡協議会事務局 瀬瀬 仁志	8
表紙写真解説 《桜祭りと洒水の滝》(山北町)	8
編集後記	8

県公連事業報告

公民館館長等研修会

テーマ「公民館の原点回帰から地域力の向上支援と住民共同の推進を」

平成二十五年度公民館館長等研修会が八月二日（金）川崎市麻生市民館大会議室において八十二名の出席で開催されました。

はじめに、木下会長より「今年度の県公連活動テーマである、公民館草創期の原点に立ち返り、地域づくり、学び、ふれあいの拠点となる魅力ある公民館を描こう。」と提起がありました。

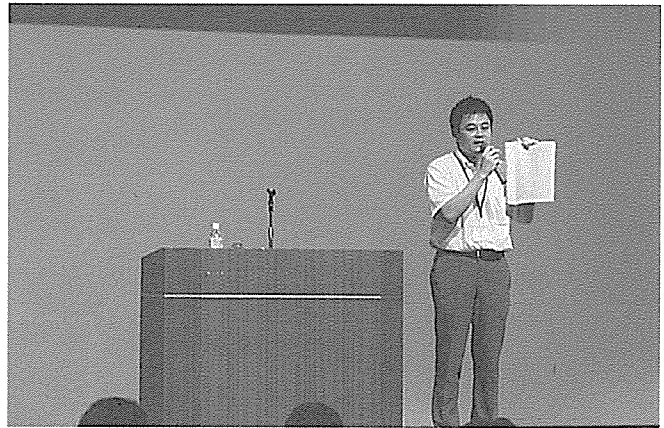
内容は、人権講話とテーマに関する講演です。

◆「公民館活動と人権教育にCSNI」

県教育局生涯学習課

主任主事 西澤 一志氏

県公連加盟市町村の公民館で実施されている人権関係の講座は、平成二十四年度で七十八となっています。この人権に関する分野の考え方として、「かながわ人権施策推進指針（改訂版）」では、子ども、女性など十一に区分



し、それぞれのカテゴリーでの施策を展開しています。人権教育の資料として、県行政課ホームページに「人権学習のための参加体験型プログラム集」がありますので、参考にしていただけたらと思います。

さて、基本的な問題となりますが、人権とはなんでしょうか。

「人権教育・啓発に関する基本計画」によると「人権とは、人間の尊厳に基づいて各人が持っている固有の権利であり、社会を構成するすべての人々が個人としての生存と自由を確保し、社会において幸福な生活を営むために欠かす

ことのできない権利である。」とされています。社会教育における人権教育とは、知識として学ぶだけでなく、日常生活において態度や行動に現れるような人権感覚を育てることです。そこで、参加体験型学習が重要となるのです。最後に、人権に関する講座などを企画される場合は、日常生活で「相手の立場に立つて、相手の気持ちを考える」ことを念頭においていただければと思います。

◆「これからの公民館の可能性を考える」

全国公民館連合会副会長・

県公連顧問 神崎 節生氏

「この道一筋」で川崎市の稲田公民館に異動した昭和四十二年五月以来、なんらかの形で公民館に関わってきました。その当時から今日の公民館職員の環境を比べると、施設は冷暖房が完備され、職員数は増減したが配置されています。当時は一人二人で切り盛りしていました。

館の外に出にくい状況ですが、地域に足を運び課題を聞き取り、学級や講座をとおして地域に返して共に考える。時代は流れても、そのことを大事にして欲しいです。

「騒然たる公民館論議を」…その中で市内の職員は連絡を取り合

い、プライベートでも勉強会を持ち、県公連では県下の職員が公民館がどうあるべきかを議論しあっていました。これからはさらに日ごろから「サロン」のような形で、公連審委員、利用者、子どもから高齢者まで自由に参加ができ、いつでも談論風発の状況を作り出せるようにしてはどうでしょう。

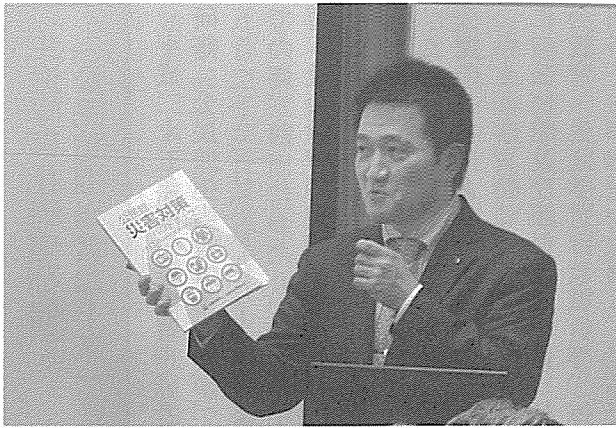
館長諸氏には、これまで以上に指導性を発揮して、職員を育ててほしいのです。そして、職員と一緒に地域と向き合いながら、なにかこの地域の課題なのかを自分のこととして、地域の人々と考える事業を創造してください。



館長・公民館運営 審議会委員等研修会

平成二十五年度館長・公民館運営審議会委員等研修会が十一月二十二日（金）綾瀬市立中央公民館講堂において二二一名の出席者で開催されました。

今回の研修テーマは、年間活動テーマである地域コミュニティでの「まちづくり」に求められる公民館の役割についてです。東日本大震災直後の、コミュニティの暮らしをささえる公共施設の一つとして、公民館が果たした役割から学びました。



◆「東日本大震災に学ぶ公民館の役割」

全国公民館連合会

事務局次長 村上 英己氏

阪神淡路大震災では避難所で一カ月間ボランティアをしてきた経験からお話しをします。

公民館は防災拠点として優れています。

公民館には部屋がいくつもあり、居住性に富んでいます。さらに、和室や調理室などもあり、電気がくれば空調が効きます。定員も適当で、住民との関わりが日頃からあり、施設の運営や管理に協力を得やすく、要領も得ています。住民は身近な地域にある施設という理解で生活ができます。また、社会教育施設なので①自前の学習ができる。②「つどい・学び・結ぶ」ソフトウェアがある。③自立を促す配慮がある。これらの利点を意識しておきたいものです。

日頃からの住民同士、団体間の付き合いがあり、連携協力があることも重要なファクターになりますし、地域のリーダーを育てる大切な仕事もできます。

防災マニュアル本のは多くはゴールが「避難所へ行くこと」で終わりますが、公民館関係者はそこからスタートです。公民館の職員が「考えが及ばない」では済まされ

ません。日ごろから災害や非常時に自らの公民館でどのように対応したらよいか心がけることが大事です。

◆「地域づくり・まちづくりと公民館」

NPO法人まちづくり技術情報

システム理事長 佐川 嘉久氏

人口減少、超高齢社会、行財政の悪化に伴う福祉、住民サービスの低下、中央と地方の格差拡大など、激変する社会環境の中で、これからの地域づくり・まちづくりにおいて、公民館に何が求められるのか、その可能性について、お話を伺いました。

まず初めに、車社会の進展による従来型の商店街の衰退、地域文化の希薄化、高齢者、子ども等の弱者に厳しい環境など、現在の社会状況について問題提起があり、つぎに、国のまちづくり施策や民間主体による「まちづくり会社」方式などの先進的な取り組みをご紹介いただき、最後に、これらの課題や事例を踏まえたまちづくりについてご提案をいただきました。

具体的には、街なかを生活の庭にし、スロウライフを楽しむ場に、高齢者を中心とした地域住民を街なかへ誘引して、人も街も元気にするというものでした。そし

館長・公民館運営審議会委員等研修会



て、その実現に向けては、公民館のノウハウを生かすとともに、役割の拡大を図り、地域住民等のネットワーク拠点として、地域づくりの新たな担い手となること、超少子高齢社会における公民館に求められる役割であるとの言葉でまとめられました。

講演後、「今後の方向付けに参考になった。」「大変すばらしい現代にマッチした講演でした。」「公民館の役割の重要性を感じた。」等、講演内容への高い評価が寄せられました。

生涯学習指導者研修
「公民館担当者コース」

平成二十五年度生涯学習指導者研修「公民館担当者コース」が、五月二十三日から九月十三日まで、四回にわたり、「生涯学習・社会教育の地域拠点としての公民館のあり方と職員の能力の向上」をテーマに開催されました。この研修は、県教育委員会と県公連の共催による事業です。

県生涯学習情報センターを会場に、公民館及び類似施設職員、社会教育・生涯学習行政職員等、毎回多くの参加をいただき、全体では延べ百三十六名の参加がありました。今年度は二回目から四回目の研修の最後に情報交換の時間を設け、普段あまり交流の少ない市町村担当者同士の情報交換と交流の時間を持ったことは喜ばれたと思います。全四回の内容については次のとおりですが、各回の参加者は意欲的で、発表や講義は熱心に聴き、ワークショップでは積極的に意見・情報の交流や共有を行っていました。

《第一回 基礎編》

五月二十三日(木)

○講義「生涯学習とは何か、社会教育とはなにか、法令から学ぶ」
法政大学キャリアデザイン学部 教授 佐藤 一子氏

○講義「PLANETかながわの活用について」
県生涯学習情報センター職員

○講義とワーク
「地域づくりのための学習プログラム」の企画・運営」
文教大学人間科学部専任講師 青山 鉄兵氏

《第二回 基礎編》

六月二十一日(金)

○体験発表
「公民館職員として」事業担当者
者が感じるやりがいと課題」
大和市文化スポーツ部生涯学習センター生涯学習担当主任 田口 陽平氏

○人権ワーク
「外国籍県民の人権について考える」
県教育委員会人権教育担当者

○講義
「公民館の役割と県公連」
県公民館連絡協議会事務局職員

○講義とワーク
「体験↓即実践！アイスブレイキング体験」
野島青少年研修センター

センター長 富岡 克之氏

○情報交換
《第三回 実務・課題編》
七月十八日(木)

○講義
「社会教育計画と評価の実際」
国立教育政策研究所社会教育実践研究センター専門調査員 弓削 暢彦氏

○演習
「事業評価指標作り」
国立教育政策研究所社会教育実践研究センター専門調査員 弓削 暢彦氏

○情報交換
《第四回 実務・課題編》
九月十三日(金)

○講義
「みんなで考えよう、公民館の役割」
川崎市多摩市民館館長 夏井 美幸氏

○講義とワーク
「日頃の疑問を解決！公民館Q&A」
千葉県公民館連絡協議会前顧問 朱膳寺宏一氏

○情報交換
研修後のアンケートでは、

社会教育計画と評価

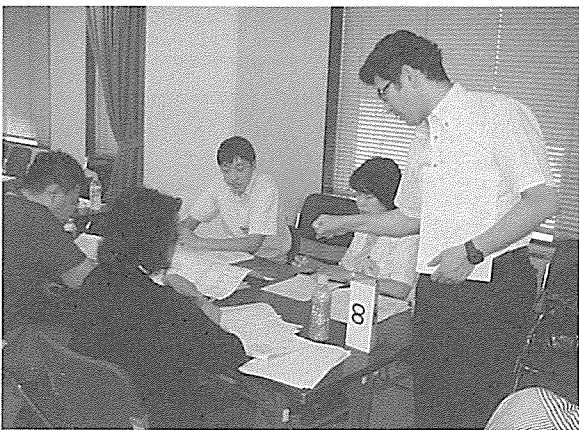
「同じ事業を行っても、目標を別に設定することで、別のものとして捉えることができるという言葉は、今後役に立つものがあった。」

評価指標作り

「評価指標作りは大変むずかしかったが、実際の事業を例にして作ることができてよかった。」など、実践的知識と理解の深まりを感じさせる意見が多くありました。

また、「情報交換」では、他館、他市の状況が聞けて良かったと、これも好評でした。

(研修部会)



第五十五回神奈川県公民館大会

テーマ「市民協働・地域協働の拠点としての公民館・コミュニティセンター」市民が「主役」のまちづくりをめざして

第五十五回神奈川県公民館大会

が平成二十六年一月二十四日に県内各市町村公民館等関係者、社会教育関係者など約三百名が参加し、ヨコスカ・ベイサイド・ポケットにおいて盛大に開催されました。

◆ウェルカムコンサート
大会参加者を歓迎するため、横須賀市のコミュニティセンター（以下コミセン）で活動されているジョイフルファミリーによるゴスペル合唱が行われました。

◆大会式典・表彰式
ジョイフルファミリーと参加者一同による『公民館の歌』斉唱で始まり、木下敬之会長と横須賀市吉田雄入市長の主催者あいさつ、各種表彰に続き、県教育委員会福寿庸生生涯学習部長から御祝辞をいただきました。

○神奈川県公民館連絡協議会表彰
【優良公民館表彰】

- 川崎市麻生市民館岡上分館
- 相模原市立星が丘公民館
- 横須賀市生涯学習センター
- 厚木市立愛甲公民館
- 厚木市立依知南公民館
- 【職員等功績表彰】
- 永富多美子（相模原市立小山公民館）

【永年勤続表彰】

- 岩瀬 正人（川崎市中原市民館）
- 細谷 妙子（川崎市中原市民館）
- 久米谷慎一（川崎市高津市民館）
- 加藤 宗一（川崎市麻生市民館）
- 岡上分館
- 越智 修（川崎市教育委員会生涯学習推進課）

- 吉田 郁子（相模原市立橋本公民館）
- 小杉寿恵子（相模原市立相原公民館）
- 中西 和子（相模原市立大野台公民館）
- 石井まさみ（相模原市立陽光台公民館）
- 西川 睦（相模原市立光が丘公民館）

○発表

- ◆公民館機能を引き継ぐ「コミセン」
- 横須賀市の生涯学習推進体制
- 横須賀市教育委員会生涯学習課 課長補佐・社会教育主事

高橋 直人氏

横須賀市が公民館から市長部局所管のコミセンになった経緯と教育委員会において全市の生涯学習を担っている生涯学習センターの事業等について紹介がありました。

○事例発表

①ボランティア講座から受け継がれる心

横須賀市北下浦コミセン活動団体

きたしたママ

北下浦公民館（現コミセン）

の講座受講生が立ち上げたボランティアグループ「きたしたママ」による親子参加型講座開設の事例と日頃の活動について発表がありました。

②コミセンからのまちおこし

横須賀市衣笠コミセン館長

小池 康夫氏

追浜コミセンと衣笠コミセンにおける事業が紹介されました。

特に講座を受講することが少ない若い人向けに実施したコスプレ講座では、受講生たちが地域イベントに参加し、街の盛り上げに役買ったことなど、ユニークな事業について発表がありました。

◆講演「市民が主役のまちづくり生涯学習で人が元気づけが元気づけ」

聖徳大学生涯学習研究所長・名誉教授、NPO法人全国生涯学習まちづくり協会理事長

福留 強氏

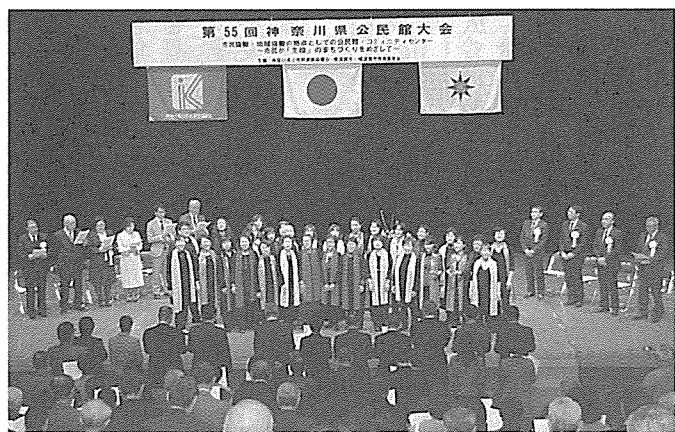
創年の提唱者として活躍され、

まちづくり等における行政と市民の橋渡し役として全国各地で活動されている福留氏にご講演いただきました。

生涯学習がまちづくりにまで波及した各地の事例を紹介しながら、まちづくりの主役として活躍する市民を養成していくことの重要性を熱心に語っておられたのが印象的でした。

◆会旗引継

大会の最後は木下敬之会長立ち会いのもと、横須賀市教育委員会永妻和子教育長から次期開催地の山北町教育委員会石田浩二教育長へ会旗が引き継がれました。



サークル紹介

「むつみ会」

三浦市初声市民センター



子どものPTA活動の時に着物をリフォームした洋服を着て行ったところ、PTA仲間の目に留まり教えて欲しいと言われ、平成十八年一月から「むつみ会」として五人でサークル活動を始めました。徐々に会員も増え、現在では四クラス三十二人となりました。各クラス月二回の活動でスタイルブックを参考にし、自由に作りたい物を作っています。どのクラスも作品が出来上がるとお互いに着てみたり、型紙を貸し借りして

和気あいあいと活動しています。毎年秋に行われている「市民センター祭り」には当初より「和服リフォームファッションショー」という形で参加し、一年間の作品をお客様に見ていただいています。モデル経験の無い私達が自作の服を着てお客様の前を歩くのは勇気がある事ですが、適度な緊張感と温かい拍手でメンバーの顔はいつもより若々しく輝いて見えます。

また、この日は四クラスが集まるので、自分のクラス以外の方の作品が見られるため、刺激を受け合い作品作りへの意欲も湧くようです。

着物は洋服作りの素材として見ると絹が多いので着心地が良く、色や柄も同じ物が無いので、私だけの一点物が作れ、とても魅力的です。

昨年は市民センターからの依頼でネクタイをポシェットに作り変える講座を行いました。メンバーも事前に見本作りをし、当日持参し講座に参加された方に説明をしながら一緒に楽しみました。

これからも今では着る機会の少なくなつた和服を、もつたいない精神と古き良き物に触れる幸せを感じながら、楽しく洋服にリフォームしていきたいと思えます。

(講師 深谷 範枝)

「成瀬シルバー囲碁倶楽部」

伊勢原市立成瀬公民館

昭和五十八年、数人の囲碁愛好者が中核となり発足しました。名称に示すように会員は、年配者が対象です。「会員の融和」を旨として和やかな雰囲気を尊重し、年配者の余裕ある活動が私たちの倶楽部の特色です。

現在の会員数は、百人を超えました。その内、女性会員は十人です。

なお、通常の定例囲碁会は、毎週土曜日午後一時から五時までの四時間で、成瀬公民館の集会所を会場として開かれています。



年間会費は、千五百円です。年間を通じて囲碁大会は、五回開催されますが、その内二回（納涼、忘年）は、連碁やペア碁等の趣向を凝らした大会としています。この趣意は、会員の段級に関係のない交流を意識したものとなっています。

その他、公民館まつりの囲碁大会のお手伝い、地区内の小学校の児童・生徒の皆さんへの指導、囲碁体験教室の開催など、幅広く地域に密着した活動を展開しております。

また、近郊他市の囲碁クラブとの交流を何年も継続しており、二十数回の交流実績を数え、歴史があるものとなっております。

当倶楽部は、年配者が主会員です。ので、「囲碁を楽しむこと」を大切にしております。手談とも呼ばれる囲碁で、勝負にあまりこだわらないで「楽しく」、「品よく」、「和やかな」打碁を心掛けています。

囲碁をたしなむ人はボケないと言われています。当倶楽部に医学博士の会員が在籍しています。その方曰く、「医学的にも立証されている」そうで会員の多くはそう信じて疑いません。

(顧問 片山 頼司)

わが館の自慢事業

「三者三様」

愛川町が誇る三公民館。愛川町は神奈川県中央北部に位置し、都心から五十km圏内、横浜から三十km圏内にあり、町の西部には丹沢山塊の東端にあたる仏果山を最高峰とする山並みが連なり、東南部は相模川と中津川に挟まれた標高一〇〇m前後の台地が広がる中央部のくびれた、ひょうたん形^①の地形となっています。山あり、川あり、自然と調和した美しい緑豊かな町が形成されています。

人口はおよそ四万二〇〇〇人で愛川町の人口構成の特徴は外国人の比率が五%以上と高いことが挙げられます。現在、愛川町では二〇〇〇人を超える外国人が居住しております。年齢、性別、国籍を問わず、多様な住民ニーズに 대응しよう、公民館でも様々な事業を実施しています。

さて愛川町は、町内に三つの公民館があります。運営に当たっては、この公民館三者三様、施設・地域に合わせた事業が実施されていますので紹介します。

最初に、愛川町文化会館です。文化会館は町役場のすぐ横に

立地し、約五〇〇人を収容するホールを兼ね備えています。成人式や立志式、PTA・育成会などの講演会などを行っており、その他に文化会館事業協会が主催するコンサートや演芸会、映画会などが毎年行われ、町民の皆様に楽しんでいただいています。

次に、中津公民館【レディースプラザ】についてです。中津公民館は愛川町の中でも人口が最も集中する中津地域に平成七年開館いたしました。開館に当たっては、町全体での女性活動の推進が求められていることに鑑みて、女性の活動推進に関する施策、事業の展開する場として位置付けし、建物の名称を愛称としてレディースプラザとしました。この中津公民館

における大きな事業として、『中津公民館まつり』があります。日ごろ公民館で活動しているサークルの代表が実行委員会を組織して、活動成果を発表する形式で行っています。毎年一五〇〇人以上が参加する盛大なまつりとなっています。その他、平成二十五年度は、十八事業に取り組み、その事業例として『スマートフォン講座』『リンパマッサージ講座』『ノルディックウォーキング講座』を実施しました。これらの講座は、参加者から大変好評でした。スマホ講座には、中高年の参

加者が多く、基本的な操作方法やスマホのメリット・デメリットなど真剣な表情で受講されていました。また、リンパマッサージ講座では、女性の方を中心に体験型の講座として実施されました。健康志向の高い昨今、多くの方に喜んでいただきました。一方、施設面では、二百二十八㎡もある鏡張りのプレイルームが自慢で、体操やクラシックバレエなど運動系サークルの活動場所として喜ばれています。レディースプラザという愛称で親しまれているように、中津公民館を利用する方の九十%が女性ということも特徴です。

最後に、半原公民館について紹



リンパマッサージ講座

介します。半原公民館は、平成元年に開館し、自然豊かな山間に立地し、体育館を併設しています。半原公民館の特徴を表現すると『地元密着型』です。月に二回の体育室の無料開放はもとより、終日、地元の方を中心に体育館をご利用いただいています。また、自主事業として毎年盛況なのが、『半原歴史講座』です。この講座は、文化財保護委員や学芸員を講師に招き、地元半原地区の歴史を写真や古文書から学べるものとして大変好評です。宮ヶ瀬ダムや養蚕など半原地区の歴史について毎年内容を変えながら実施しています。

三者三様の三公民館。愛川町の皆様方に愛される公民館として事業を実施しています。

(愛川町生涯学習課 副主幹兼社会教育主事 瀧 嘉典)

愛川町文化会館

【所在地】愛川町角田250-1

【電話】046-285-6960

中津公民館

【所在地】愛川町角田293-3

【電話】046-285-1600

半原公民館

【所在地】愛川町半原4343-3

【電話】046-281-0177

県公連を見直す

神奈川県公民館連絡協議会

事務局 額額 仁志

県公連では今年度、検討委員会を立ち上げ、組織や事業を見直してきました。見直しの視点は、ただ一つ。「県公連に加盟するメリットを、市町村の皆さんにどう感じてもらおうか」です。

ここでは、三月一日時点での見直しの具体策案を整理しました。

一 部会数を5から「3」へ！

総務部会と広報部会、公民館経営部会と研修部会をそれぞれ統合し、大会部会と合わせ3部会とします。事業をスリム化し、加盟市町村の負担軽減を図ります。また、部会への理事の振り分けは、今までの希望制ではなく、部会の特性に応じた割り振りとし、円滑な部会運営をめざします。

二 総会に合わせ研修会を開催！

例年八月に行っていた館長等研修会を、五月の総会後に開催します。館長のほか、総会に出席する評議員や理事の皆さんにも参加していただき、各公民館の活性化につなげます。

三 職員研修を各地区で開催！

生涯学習指導者研修「公民館担当者コース」(全四回)の第二回

目を、各教育事務所管内を会場に、それぞれ半日日程で開催します。また、その内容は、地域の実情に合わせた事例発表と先輩職員からの講話、情報交換で構成します。近隣の公民館関係職員が一堂に集まることで、新たなネットワーク作りのきっかけとします。

四 県公連情報をネットで配信！

「公民館かながわ」と公民館設置状況等の調査結果をインターネット上で公開し、だれでも閲覧できるようにします。これら蓄積されてきた資料は、地域の学習拠点である公民館が果してきた役割を伝える、大変貴重なものです。多くの方に役立てていただけるよう、より効果的な活用をめざします。

五 総会会場などを輪番制に！

総会と館長・公民館運営審議会委員等研修会の開催市町村を輪番制にし、数年後を見据えた対応ができるようにします。また、特定の市町村に負担をかけず、加盟市町村すべてがバランス良く貢献できる体制を整備します。

以上が、検討委員会で話し合われてきた内容です。加盟する市町村の皆さんに、少しでもメリットを感じていただけるよう、一歩ずつですが、県公連は歩みを進めています。引き続き、ご理解、ご協力をいただければ幸いです。

平成二十六年年度総会の案内

〇とき

平成二十六年五月十六日(金)

午後一時から

〇ところ

相模原市立大野北公民館

〔所在地〕

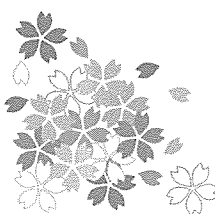
相模原市中央区鹿沼台一―十

〔電話〕

042―755―6601

〇交通

JR横浜線淵野辺駅南口前



編集後記

年度末を迎え、各職場とも異動の時期となりました。四月からは心機一転、新たな環境でお仕事を始める方も多いことと思います。

県公連も上述いたしましたとおり、役員構成や研修方法など新たな方針のもとで活動を進めていくこととなりました。

加盟市町村の負担軽減を図りながら、少しでも活動のお役にたてればと考えておりますので、ご協力をお願いいたします。

表紙

《桜祭りと洒水の滝》(山北町)

JR山北駅付近では、桜並木が線路に沿って続いています。毎年三月下旬から四月上旬にかけて、山北町内の桜は満開を迎え、とても美しい光景が広がります。期間中は「やまきた桜祭り」が開催され、多くの観光客の方で賑わっています。夜間にはライトアップされ、闇に浮かび上がる夜桜は幻想的です。祭りの期間中には「ソラン山北よさこいフェスティバル」も行われ、二十を超える団体の踊り手が桜の花を背景に熱い踊りを披露します。

また、車で五分ほどのところには「洒水の滝」があります。鎌倉時代に文覚上人が身を清めたと伝えられるこの滝は、落差が六十九メートルで、名水百選、日本の滝百選、神奈川の景勝五十選、かながわ未来遺産一〇〇にも選ばれています。豊かな水量で流れ落ちる様は雄大です。毎年七月第四土曜日には「洒水の滝祭り」が開催され、多くの観光客で賑わいます。駅からは山北の町を一望できる河村城址を経由してのハイキングコースも整備されています。